

土の中からのメッセージ(8)

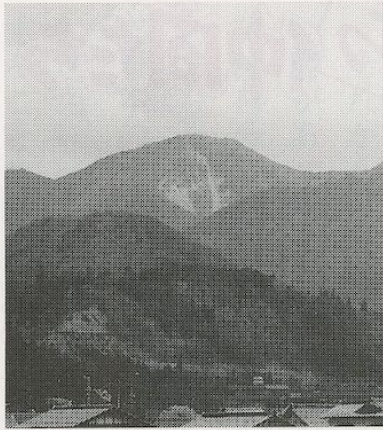
下呂石の話(その一)

一九世紀、デンマークの学者トムセンは人類の歴史を、人類が作り使い続けてきた道具の材料が何であったかを基準に、石器時代、青銅器時代、鉄器時代の三つに区分しました。

これに対し日本では土器を基準に時代が分けられ、先土器(旧石器)時代、縄文時代、弥生時代が石器時代に該当します。

ところで一口に石器といっても、それぞれの使用目的にふさわしい石材があります。斧には固くて緻密な石が、製粉具には粒子の粗い石が、石鏝やスクレイパー(切ったり削ったりする道具)、石錘などには鋭い刃がでる石が選ばれます。

刃物作りに適した石として黒曜石(天然ガラス)、チャート、



湯ヶ峰遠景

頁岩などがあり、岐阜県を中心とするこの地方では、これらに下呂石が加わります。

下呂石は安山岩の一種で、温泉で有名なあの下呂町の南東に位置する湯ヶ峰で産出します。色は黒くて、割れ口はガラスのように鋭く、よく切れます。

さて、大昔の人たちはこの優れた刃物の素材をどうやって手に入れていたのでしょうか。直接下呂まで出かけたのでしょうか。あるいは隣村と物々交換したかかもしれません。

ところが、美濃加茂市内の遺跡から出土した剝片をよく観察すると、おもしろいことが分かります。その一部に円礫の肌を残している例があるのです。つまり、飛驒川を流れてきた下呂石を川原で拾っていたのです。(博物館建設委員 齊藤基生)

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

(平成四年十一月分)

○笠 一点

(渡辺休一さん/伊深町)

近い将来の博物館建設に向けて情報や資料を集めています。市社会教育課(☎内線362)まで情報をお寄せください。